

「ちいきにつたわるおどりやまい」の^{しゅるい}種類

「ちいきにつたわるおどりやまい」にはいくつかの種類があり、それぞれとくちょうをもっています。

ちいきにつたわるおどりやまいについてりかいを深めたり、自分たちのちいきにつたわるおどりやまいを調べたりするときの^{さんこう}参考にしましょう。

かぐら 神楽

→教科書29ページ「相模里神楽」、裏表紙「石見神楽」

神様をまねき、その前でえんじる歌やまいのことを**神楽**といいます。神楽には、
天皇のすまいである宮中につたわる「御神楽」と、日本各地の神社などにつた
わる「里神楽」があり、人びとの健康などを願って、今もさまざまな神楽がえん
じられています。

「相模里神楽」(教科書29ページ)の写真は、「天之磐扉」というえんもくです。
このえんもくは、アマテラスオオミカミという太陽の神様が天の岩戸にこもって
しまったとき、アメノウズメノミコトというおどりやまいの神様が岩戸の前で神
楽をまうと、アマテラスオオミカミがすがたをあらわして世界に太陽の光がもど
った、という日本の神話を題材にしています。

でんがく 田楽

昔の人たちが、いねのほうさくを願^{ねが}ってえんじていた歌やおどりを田楽といいます。田楽には、農^{のう}民^{みん}たちがえんじていたものと、田楽をしょくぎょうにしていた「田^{ほう}楽^し法師」という人たちがえんじていたものがあります。

●農民たちがえんじていたもの

→教科書 28 ページ「壬^{みぶ}生^{はな}の花^{たうえ}田^え植

中国地方一帯には、囃^いし^{たい}や歌に合わせて田^だ植^たえをする「囃^はし^や田」「田^た囃^ばし」という行事がつたえられています。「壬^{みぶ}生^{はな}の花^{たうえ}田^え植」は囃^はし^や田のひとつで、その様子がとてもはなやかなことから「花^{はな}田^た植」とよばれるようになったといわれています。

「壬^{みぶ}生^{はな}の花^{たうえ}田^え植」は、「サンバイ」「囃^はし」「早^さ乙^{おとめ}女」によってえんじられます。サンバイは、すりざさらという竹でできた楽^が器^きを打^うち^なが^ら歌を歌い、全体^しの指^し揮^きをします。囃^はしはサンバイのすりざさらの音に合わせてたいこやかね、笛^{ふえ}をえんそうし、早^さ乙^{おとめ}女は歌を歌いながら田^た植^えをします。

●田楽法師がえんじていたもの

→教科書 28 ページ「那^な智^ちの田^た楽

和歌山^{わかやま}県^{けん}那^な智^ち勝^{かつ}浦^ら町^{ちょう}にある熊^{くま}野^の那^な智^ち大^{たい}社^{しゃ}では、毎年7月に「扇^{おうぎ}祭^{まつり}」が行われます。「那^な智^ちの田^た楽」は、この扇^{おうぎ}祭^{まつり}でえんじられる田^た楽で、今から600年ほど前、京^{きょう}都^とからまねいた田^た楽^が法^{ほふ}師^しがつたえたものだといわれています。

「那^な智^ちの田^た楽」は、笛^{ふえ}2人、ビンザサラ4人、たいこ4人、シシテン（つづみ）2人の計12人によってえんじられます。ビンザサラやたいこの人たちは、楽^が器^きをえんそうしながら、さまざま^{たいけい}な隊^{たい}形^{けい}になっておどります。

風流

はなやかな衣装いしやうを身に付けたりつ仮装かそうをしたりして、囃子はやしに合わせておどったり歌ったりするものを風流といます。風流には、「盆踊りぼんおど」のほか「太鼓踊りたいこ」「雨乞い踊りあまご」などがあります。



→教科書29ページ「西馬音内の盆踊りにし も ない ぼんおどり」

「盆踊り」は、夏のお盆のころに行われる行事です。もともとは、なくなった人たちをくようするため行われていたものですが、今では夏祭りとしても、多くの人たちに親しまれています。

【日本各地につたわるおもな盆踊りかくち】

黒石よされくろいし（青森県黒石市）／毛馬内盆踊りけまない（秋田県鹿角市）／
盛岡さんさ踊りもりおか（岩手県盛岡市）／山形花笠まつりやまがたはながさ（山形県山形市）／
新島の大踊りにいじま おおおど（東京都新島村）／徳山の盆踊りとくやま（静岡県榛原郡川根本町）／
新野の盆踊りにいの（長野県下伊那郡阿南町）／郡上おどりぐじょう（岐阜県郡上市）／
越中八尾おわら風の盆えっちゅうやつ お（富山県富山市）／十津川の大踊りとつかわ（奈良県十津川村）／
白石踊りしらいし（岡山県笠岡市）／阿波おどりあわ（徳島県徳島市）／
姫島盆踊りひめしま おおいた ひがしくにさき（大分県東国東郡姫島村）／山鹿灯笼まつりやまがとうろう（熊本県山鹿市）／
沖縄全島エイサーまつりおきなわ（沖縄県沖縄市）

獅子舞

「獅子頭」とよばれるかぶりものをかぶってえんじるおどりやまいを、獅子舞といます。日本各地には、やく 8,000 の獅子舞がつたえられており、獅子舞をえんじることによって、えきびょうやあくまなどを追いはらうことができるともいわれています。

獅子舞には、「二人立の獅子舞」と「一人立の獅子舞」があります。

●二人立の獅子舞

→教科書 28 ページ「讃岐獅子舞」

2人以上で1体の獅子をえんじる獅子舞です。神楽としてえんじられるもの、神社のお祭りでえんじられるもの、外国から取り入れられた芸能としてえんじられるものなど、日本各地にさまざまなかたちでつたえられています。

獅子のすがたも、いろいろなタイプがあります。獅子頭に胴幕をつけて2人で1体の獅子をえんじるもの、着ぐるみのような獅子でえんじるもの、大人数で1体の獅子をえんじるものなどがあります。

「讃岐獅子舞」(教科書 28 ページ)の写眞は、香川県仲多度郡多度津町の山階地区で活動する「上小原獅子組」の獅子舞です。この獅子舞は、毎年10月に行われる山階春日神社のお祭りでえんじられます。

●一人立の獅子舞

1人で1体の獅子をえんじる獅子舞です。仮装をしておどる風流のおどりのひとつで、関東や東北地方など、東日本一帯につたえられています。

一人立の獅子舞には、3体1組で、おなかにつけたたいこを打ちながらえんじる「三匹獅子舞」、8体1組などでシカの頭をかぶり、とびはねるようにしてえんじる「鹿踊」などがあります。

その他

「ちいきにつたわるおどりやまい」には、これまでに取り上げた種類にはふくまれないものも数多くあります。

●アイヌ古式舞踊こしきぶよう

→教科書29ページ「アイヌ古式舞踊」

「アイヌ古式舞踊」は、北海道でくらしているアイヌの人びとの間あいだでつたえられてきた歌とおどりです。これらの歌とおどりは、お祭りやさまざまな行事のときにえんじられてきたもので、ちいきによって少しずつちがったものがつたえられています。

「アイヌ古式舞踊」(教科書29ページ)の写真は、阿寒地方あかんにつたわる「フッタレチュイくろかみ おど(黒髪くろかみの踊り)」というおどりです。おどり手たちは、体を左右に大きく動かして長い髪をふり回し、強い風の中でゆれる松の木の様子をひょうげんします。

●長崎くんちの奉納踊ながさき ほうのうおどり

→教科書28ページ「長崎くんちの龍踊じゃおどり」

「長崎くんち」は、長崎市にある諏訪神社すわで行われるお祭りです。400年近いれきしがあり、毎年10月7日から9日までの3日間行われます。

長崎くんちでは、長崎市内にある58の町が「演し物だもの」とよばれるおどりを奉納します。演し物を奉納する町を「踊町おどりちょう」といい、7年に一度順番じゅんばんが回ってきます。

演し物には、「長崎くんちの龍踊じゃおどり」(教科書28ページ)で取り上げている「龍踊じゃおどり」のほか、「阿蘭陀方おらん だまんざい才ごしゅいんせん」「御朱印船ごしゅいんせん」「コッコデシヨたい こやま(太鼓山)」などがあります。長崎は江戸時代えど、外国との交易こうえきのまどぐちでした。そのため長崎くんちの演し物には、中国やオランダなど、外国の文化のえいぎょうを受けて生まれたものが多くみられます。